

を得て、市内に住む65歳から75歳までの高齢者13人が実験に参加。昨年11月以降、ドローンの構造や仕組み、法規制などの知識の他、基本的な操作技術の実習や実際の飛行訓練などを受けてきた。2月には、実際の地域課題にドローンがどう活用できるかを議論するほか、学んだ操縦技術の復習をする。

ドローンは人が入り込めない災害現場などでの活用が期待され、現場の撮影などに使うことができる。防犯面では、ドローンを使ったパトロールや行方不明者の探索など地域活動への利用も想定する。高齢者がこうした活動に参加することで、健康の維持や地域コミュニティの形成にもつながるとみる。

NTT東日本の担当者は「ドローンパイロットらが社会参画し、街づくりの担い手となるシニアが増えることで、これまで以上に安心して多世代が共生する街づくりが進む」と期待している。

シニア、ドローン操縦

本庄で実験 防犯や防災想定

NTT東



ドローンの操縦訓練に参加する埼玉県本庄市の高齢者ら（22年12月、本庄市）

NTT東日本は埼玉県本庄市や同市自治会連合会、筑波大学などと連携し、65歳以上のシニア世代がドローンの操縦者となり、健康維持と地域貢献の両立を目指す実証実験を始めた。期間は3月まで。基本的なドローンの知識や操縦技術を学ん

でもらい、防犯や防災に関する地域活動、将来は不法ゴミ投棄の監視などへの応用を想定する。本庄市や自治会の協力